

保育園児の保護者を対象にした家庭内における絵本の利用状況に関する調査

駒井美智子

東京福祉大学 短期大学部(伊勢崎キャンパス)

〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1

(2011年5月16日受付、2011年7月7日受)

抄録: 絵本が家庭において、子育ての中にどのように位置づけられ、活用されているのか、保育園児の保護者を対象にアンケート調査を実施した。絵本の読み聞かせは80%以上の家庭で実施され、その主体は母親であった。読み聞かせ時は、1歳以下の低年齢児では膝に抱きながら、4歳児では横に座っての姿勢が多かった。また、保護者は、絵本に関する保育園からの情報に関心を払っている様子が伺えた。これらの結果をもとに、絵本を媒体とした親子の繋がりについて考察する。(別冊請求先: 駒井美智子)

キーワード: 絵本、読み聞かせ、母子関係

緒言

保育者が日常保育の中で何を活動の中心にするかは、とても重要なことであり、毎日の小さな活動が、子どもの成長発達に大きな影響を及ぼすことは言うまでもない。子どもは保育所だけで育てているのではなく、保護者(主として母親)の最大の影響を受けて育つのである(森上, 2008)。ここには基盤となる家庭が大きな存在をなす。例えば、保護者が子どもの発達に全く無関心や育児に無気力であれば、子どもの育ちには十分な発展はみられない。

子どもを取り巻く環境には人的環境と物的環境がある。家庭内における人的環境は家族で、その役割については多くの研究がなされているが(駒井, 2004)、人的環境と物的環境の相互関連に関する調査は十分とは言えない。

本研究では、子どもを取り巻く人的環境として保護者に、物的環境として幼児文化教材の「絵本」に焦点をあて、保護者が「絵本」を媒介としてどのように子どもと接しているかについて、保護者に対するアンケート調査を実施した。その結果をもとに、母子関係における絵本の役割について考察した。

研究対象と方法

1. 対象者

アンケート用紙配布の対象者は、Y県M郡の複数の保育園に通園する0～5歳児の保護者で、2009年度が1,346人、2010年度が1,263人であった。

2. 調査方法

アンケートは、1回目が2009年7月20日、2回目が2010年9月30日に実施した。図1および図2は、それぞれ1回目および2回目のアンケート用紙である。

3. 個人情報への配慮

アンケートの実施に当たり、その目的と利用について十分説明を行った。アンケートに対する回答の記述は自由とし、提出についても任意とした。

結果の分析に当たっては、個人情報が特定されないよう配慮を行った。

結果と考察

1. 回収率

アンケートの回収率は、2009年度が86%、2010年度が94%であった。

自由記述によるアンケート調査を実施した場合、その回収率は通常は60%程度にとどまるのが普通である。しかし、今回の調査では高い回収率を示しており、日常的に保育所と保護者との間の関係の良さ、すなわち、協同して子どもを育てるという意識の高さが背景にあるものと考えられる。

2. アンケート結果

①ご家庭でお子さんに絵本を読んであげていますか?
絵本の読み聞かせの実施の有無について、図3は全体集

南都留郡保育内容研究会
平成21年7月20日実施

平成21年度 南都留郡保育内容研究会アンケートについて

南都留郡保育内容研究会では毎年テーマを決め研究をしています。今年度は「絵本」について調査をし研究の参考にしていきたいと思い、このアンケートを実施することになりました。ご多忙のことと思いますが、ご協力をお願い致します。

保護者各位

お子さん（園児）について教えてください。★ 年齢 才 男 女 第（ ）子

① ご家庭でお子さんに絵本を読んでいますか

※ はい

② 「はい」と答えた方に質問します。
週に何回 読んであげていますか
1回 2、3回 ほとんど毎日

③ 1回に何冊ですか
1冊 2冊 3冊 それ以上

④ どのような時に読んであげていますか
子どもが「読んで」と言った時
家事の間 寝る前 その他（ ）

⑤ 誰が読んであげていますか（複数回答可）
父 母 祖父 祖母 その他

⑥ どのような状態で読んであげていますか
ひざに抱きながら 向かい合って
横に座って その他（ ）

⑦ どのような絵本を読んであげていますか
乗り物 動物 知育絵本（月刊誌等）
日本の昔話 海外の昔話 など
（ ）

⑧ 特にお気に入りの絵本を教えてください
作者名（ ）
題 名（ ）

⑨ お子さんはなぜその絵本が好きだと思いますか
理由をお書き下さい
（ ）

⑩ 読んでいるとき何か問題点、よい点がありましたか
問題点（ ）
良い点（ ）

⑪ 何才（何ヶ月） から読み聞かせをはじめましたか
（ 歳 ヶ月）

⑫ 図書館の利用はしていますか
はい（月 回以上）
いいえ

⑬ 絵本選びのポイントは何ですか
内容 絵 作者
その他（ ）

※ いいえ

② 「いいえ」と答えた方に質問します。
それはなぜですか
★時間がない ★絵本がない
子どもが絵本に興味がない

③ 読んでもあげられなくても、絵本に触れられる機会がありますか
★ある ★ない
・子どもの好きな本を購入する
・図書館に連れて行く
●借りる
その他〔 〕

④ 絵本を読んであげる機会があれば今後読んであげたいと思いますか
★読んであげたい ★別に思わない

※ いいえと答えた方は以上で質問は終了です。

～以下の質問が一番上の保育入所児のお子さんだけに記入して下さい～

・ …保護者の方にお聞きします…

① ご自身が小さい時にお気に入りの絵本は何でしたか
〔 〕

② その絵本をお子さまに読んであげましたか？
または、読んであげたいと思いましたが
はい いいえ

③ ご自身が小さい時に絵本を読んでもらった経験ありますか
〔 〕

※ ご協力ありがとうございました。

図1. 2009年度のアンケート用紙

保護者各位 南都留郡保育内容研究会
平成22年9月30日

平成22年度絵本についてのアンケート

南都留郡保育内容研究会は今年も「絵本」について調査をし研究の参考にしていきたいと思い、昨年に続きこのアンケートを実施することになりました。ご多忙のことと思いますが、ご協力をお願い致します。

お子さん(園児)について教えてください。 年齢 才 男 女 第()子

① ご家庭でお子さんに絵本を読んであげていますか？

はい いいえ

② 週に何回 読んであげていますか？ ② それはなぜですか？

1回 2, 3回 ほとんど毎日 時間がない 絵本がない
子どもが絵本に興味がない

③ 1回に何冊ですか？ ③ 大人が読んであげられなくても、子どもが絵本に触れる機会がありますか？

1冊 2冊 3冊 それ以上 ある ない
・子どもの好きな本を購入する
・図書館に連れて行く
・借りる
・その他()

④ どのような時に読んであげていますか？ ④ 今後、絵本を読んであげる機会があれば読んであげたいと思いますか？

子どもが「読んで」と言った時 家事の間 読んであげたい 別に思わない
寝る前 その他()

⑤ 誰が読んであげていますか？ (複数回答可)

父 母 祖父 祖母 その他()

⑥ どのような状態で読んであげていますか？

膝に抱きながら 向かい合って)
横に座って その他()

⑦ どのような絵本を読んであげていますか？

乗り物 動物 知育絵本(月刊誌等))
日本の昔話 海外の昔話
その他()

⑧ 特にお気に入りの絵本を教えてください

作者名()
題名()

⑨ お子さんはなぜその絵本が好きだと思いますか？理由をお書きください

()

⑩ 読んでいるとき何か問題点、良い点がありましたか？

問題点()
良い点()

⑪ 何才(何ヶ月)から読み聞かせを始めましたか？

(才 ヶ月)

⑫ 図書館の利用はしていますか？

はい (月 回以上)
いいえ

⑬ 絵本選びのポイントは何か？

内容 絵 作者)
その他()

保護者の方にお聞きます

① ご自身が小さい時に、絵本を読んでもらった経験はありますか？

はい いいえ

② ご自身が小さい時に、お気に入りの絵本は何ですか？

()

③ その絵本をお子さんに読んであげましたか？

はい いいえ

④ 園だよりや絵本のコーナーにおいて本の紹介を行っていましたが、意識の変化はありましたか？

あった ない
・関心を持つようになった
・読む機会が増えた
・購入した

ご協力ありがとうございました。

図2. 2010年度のアンケート用紙

計を、図4は2歳児の保護者に限ってまとめたものである。全体集計では、2009年度および2010年度とも80%以上の保護者が絵本を読み聞かせしており、その割合は2歳でもっとも高く、90%に達していた。

これらの結果は、家庭の中で「絵本」という幼児文化教材が存在して活用されている実態、すなわち物的環境として重要な役割を果たしていることを示している。年齢別にみると2歳児がもっとも多く、知的発達が著しく、何にでも興味を持つ年齢層(石川, 2009)における絵本の活用の重要性を表していると考えられる。

②どのような時に、誰が読んでいますか？

もっとも読み聞かせの実施率が高かった2歳児の保護者を対象に、図5はどのような時に、図6は誰が読み聞かせをしているのかのアンケート結果である。読み聞かせの時期は子どもが求めた時、および寝る前が多く、実施者は母親が多かった。

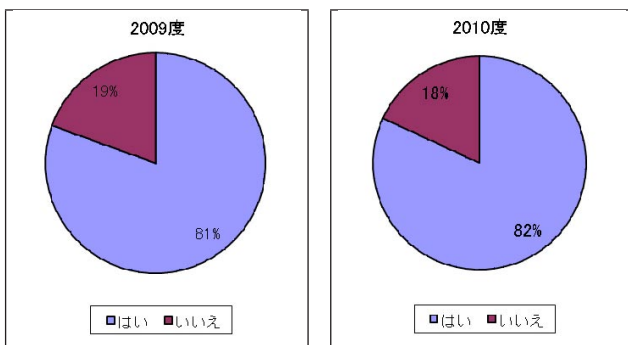


図3. 「ご家庭でお子さんに絵本を読んであげていますか？」に対する回答(全体集計)
 2009年：はい938人(81%)、いいえ227人(19%)
 2010年：はい982人(82%)、いいえ217人(18%)

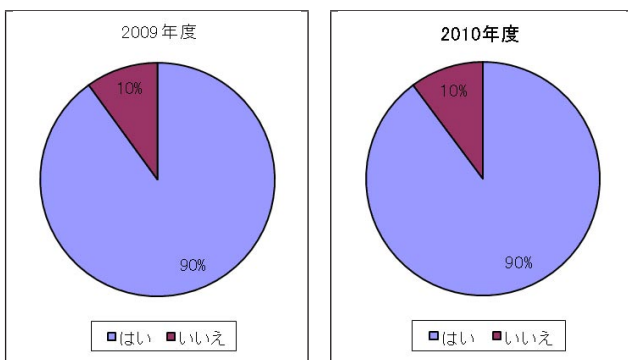


図4. 「ご家庭でお子さんに絵本を読んであげていますか？」に対する回答(2歳児保護者)
 2009年：はい126人(90%)、いいえ14人(10%)
 2010年：はい141人(90%)、いいえ16人(10%)

幼児の発達段階において、2歳児は音声による言語の修得に重要な時期であり、絵言語だけでなく、音声言語に強い興味を持ち始める時期である(石川, 2009)。従って、子どもが絵本の読み聞かせを求めることは自然の姿であり、それに応じることの重要性を示している結果といえよう。

さらに、絵本の読み聞かせる環境を作っている主体が母親であったことは、2歳児の子育ての中心が母親で、その重要性が確認される。

③どのような状態で読んでいますか？

図7、図8、図9は、それぞれ、0~1歳児、4歳児、5歳児の保護者を対象に、絵本を読んでいる状態に関するアンケート

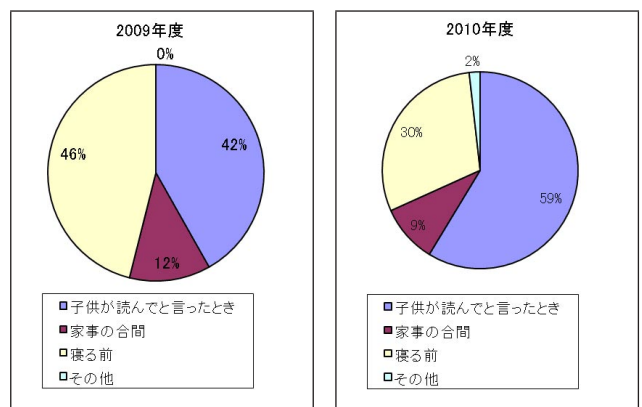


図5. 「どのような時に読んでいますか？」に対する回答(2歳児保護者)
 2009年：子どもが読んでと言ったとき69人(42%)、家事の合間20人(12%)、寝る前76人(46%)
 2010年：子どもが読んでと言ったとき98人(59%)、家事の合間16人(9%)、寝る前50人(30%)、その他3人(2%)

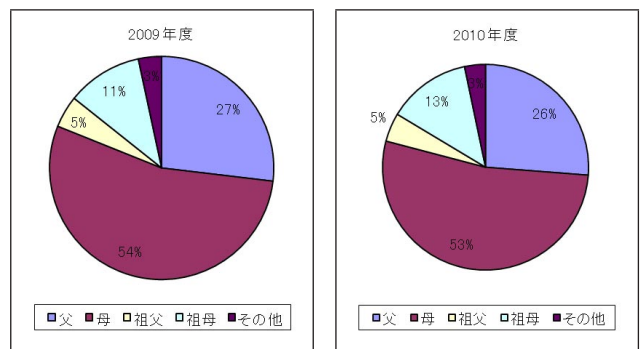


図6. 「誰が読んでいますか？」に対する回答(2歳児保護者)
 2009年：父64人(27%)、129人(54%)、祖父11人(5%)、祖母26人(11%)、その他8人(3%)
 2010年：父64人(26%)、母129人(53%)、祖母11人(5%)、祖父32人(13%)、その他8人(3%)

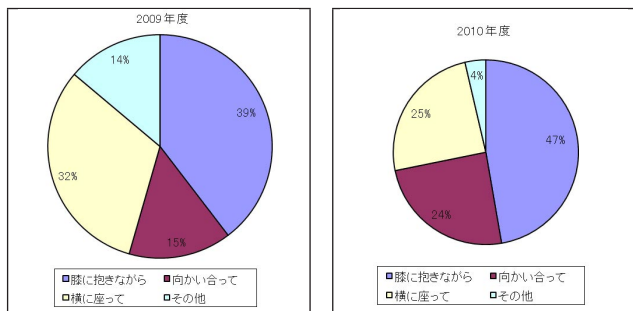


図7. 「どのような状態で読んでいますか？」に対する回答 (0～1歳児保護者)

2009年：膝に抱きながら40人(39%)、向かい合って15人(15%)、横に座って32人(32%)、その他14人(14%)
 2010年：膝に抱きながら52人(47%)、向かい合って27人(24%)、横に座って27人(25%)、その他4人(4%)

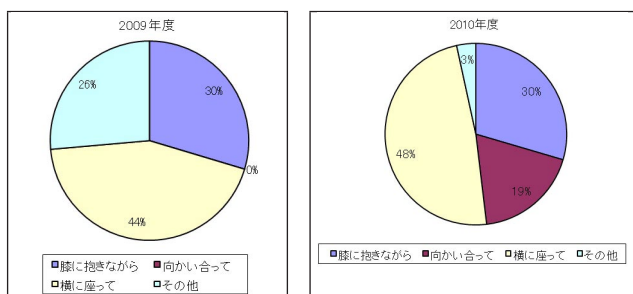


図8. 「どのような状態で読んでいますか？」に対する回答 (4歳児保護者)

2009年：膝に抱きながら64人(30%)、向かい合って0人(0%)、横に座って95人(44%)、その他57人(26%)
 2010年：膝に抱きながら78人(30%)、向かい合って49人(19%)、横に座って128人(48%)、その他9人(3%)

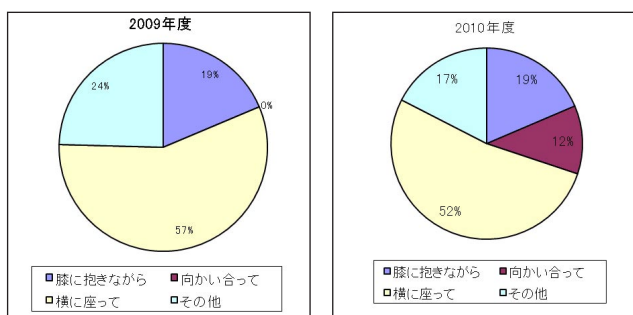


図9. 「どのような状態で読んでいますか？」に対する回答 (5歳児保護者)

2009年：膝に抱きながら44人(19%)、向かい合って0人(0%)、横に座って134人(57%)
 2010年：膝に抱きながら50人(19%)、向かい合って31人(12%)、横に座って141人(52%)、その他47人(17%)

ト結果である。0～1歳児では「膝に抱きながら」がもっとも多いが(図7)、年齢が上がるにつれて「横に座って」あるいは「向かい合って」の割合が高まっていった。

0歳～1歳の発達段階はまだ歩けない段階にあるため、抱っこはあたり前の動作であるが、絵本を通して母子間のスキンシップやコミュニケーションを深めている姿が、このデータから読み取れる。子どもにとって耳元に心地よい母親の語りは格別なのであり、母親の優しさと愛されていることを実感しながら喜びと安心感を高めるとともに、触れ合いを通じて信頼関係が確実に育っていくことの重要性が理解できる。

一方、4歳と5歳児で「抱きながら」が減って「横に座って」が多くなったのは、この年齢になると弟や妹が存在する場合があります、それに加えて、子ども自身が抱っこしてもらった年齢ではないという自覚が芽生え始めたことも挙げられる。保育所において先生が絵本を語る姿勢や態度、子どもが絵本を聞く態度・経験から、横に座って見聞きする態度が次第に養われ、成長して行くのであろう。

④絵本選びのポイントとは？

図10に示すように、絵本選びのポイントは、全体を通して「内容で選ぶ」と「絵」が多かった。

これらの結果から、選択のポイントは、絵本を与える(主として)母親が好む作品や作家というよりも、現在、我が子に何が必要なか、それは何であるか、つまり臍的な要素(教育性)が強く、絵本を子育ての重要な支援物としている様子が伺われる。例えば、食育教育として「好き嫌いをなくそう」などのテーマの絵本が、しばしば取り上げられることである。幼児教育における物的環境として、絵本が大きな役割を果たしているということが示唆される。特に発

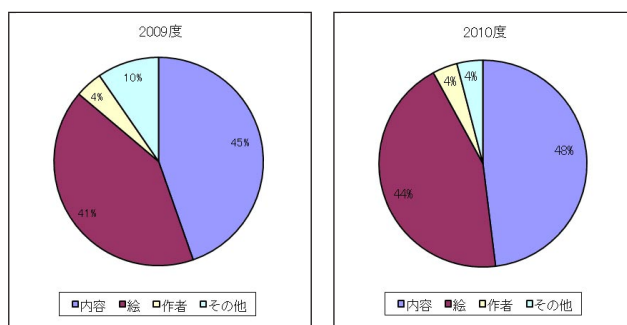


図10. 「絵本選びのポイントは？」に対する回答(全体集計)

2009年：内容549人(45%)、絵511人(41%)、作者52人(4%)、その他118人(10%)
 2010年：内容617人(48%)、絵563人(44%)、作者50人(4%)、その他52人(4%)

達の特徴として、2・3歳の段階は自我の芽生えや質問期、また基本的な生活習慣の確立を目指すスタートである。この時期に絵本を媒体として、躰に対しての支援効果を期待することもかなりの利点が期待される。

⑤園だよりや絵本コーナーにおいて本の紹介を行ってきましたが、意識の変化はありましたか？

この質問は2010年度のみ実施したが、「関心を持つようになった」、「読む機会が増えた」、「絵本を購入した」の順で、絵本に対する関心度が高まった。

この結果から見ても、園だよりや保育所に設定されている絵本コーナー(情報の共有・情報の提供)の役割は大きく、これより保育者と保護者の子育てに相互支援が成立し、子育ての活性化がみられることがわかる。

今回は図で示さなかったが、「今後絵本を読んであげたい」が、2009年では90%であったのが、2010年では94%と向上していた。

これらの結果は、保育所に子どもを預けている保護者は、子どもに対して具体的に関わる時間が少ない中でも、保育所から支援(情報の共有・情報の提供)を受け、子育てに対応していきたいという意識があることが示唆された。

絵本という幼児用教材は、どこにでもある「当たり前」の

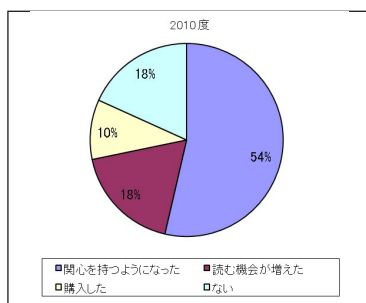


図11. 「園だよりや絵本コーナーにおいて本の紹介を行ってきましたが、意識の変化はありましたか？」に対する回答(全体集計)

2010年：関心を持つようになった488人(54%)、読む機会が増えた165人(18%)、絵本を購入した91人(10%)、関心がない166人(18%)

存在であるため見落とされがちである。しかし、本研究結果は、絵本の読み聞かせは母子間の相互信頼と、両者の安心感を高める媒体になるパワーを秘めた教材となり得ることを示している。したがって、保護者には、一人ひとりの子どもにとってふさわしい絵本を選定する能力が必要となる。これは、ベンチマーキングにおけるベスト・プラクティスを見つけることに相当し、子どもが学び(Learning the Best)によりベストに近づいていくことになる(ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部, 1995)。

結論

今回のアンケート調査結果から、保育所に子どもを預ける保護者、特に母親は、日常の忙しさに追われながらも、絵本の読み聞かせを通した子どもとの接触の時間を設けている姿勢が伺えた。絵本を媒体とした母子間のスキンシップ、および子どもの発達にふさわしい絵本の選定は、幼児の言語発達ばかりでなく心理面の安定にも寄与し、その重要性が示唆される。

謝辞

本研究の実施にあたり、アンケートの回収に協力をいただいたY県M郡の複数の保育園関係者に深謝します。また、論文の作成にあたり、栗原 久氏(東京福祉大学 教授)の助言を受けたことにも感謝します。

参考文献

駒井美智子(2004): 幼児文化教材「理論と実践」. 理想書林, 東京.
 ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部(1995): ベンチマーキングの理論と実践. ダイヤモンド社, 東京.
 森上史郎(2008): 保育内容総論. ミネルヴァ書房, 京都.
 石川洋子(2009): 保育内容総論. 大学図書出版, 東京.
 松居直(1978): 絵本を見る眼. 日本エディタースクール出版社, 東京.
 松居直(1973): 絵本とは何か. 日本エディタースクール出版社, 東京.

Search about the Use of Picture Books in the Families Leaving Their Small Children in Nursery School

Michiko KOMAI

Junior College, Tokyo University of Social Welfare,
2020-1 San'o-cho, Isesaki-city, Gunma 372-0831, Japan

Abstract : In this study, questionnaire about the use of picture books in the family was carried out to the protectors leaving their children in nursery school. Reading of picture books was practiced in more than 80% of families, and the main performer was the mother. During the reading, the child up to 1 year old was generally kept on the knee of reader. On the other hand, the child of 4 years old tended to sit beside the reader. Furthermore, it was shown that the protectors of small children took a great interest in the report about picture books from the nursery school. Based on these results, the relationship between the small child and the protector, particularly mother, through picture books was discussed.

(Reprint request should be sent to Michiko Komai)

Key words : Picture book, Reading, Mother-child relationship

